

# 第1学年国語科学習指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 公開授業Ⅱ  
対 象 1年5組 男17名 女17名 計34名  
指導者 相原 友子

1 単元名 むかしばなしの どうじょうじんぶつと すきなところを しょうかいしよう  
「むかしばなしがいっぱい」

## 2 単元の目標

### 第1学年及び第2学年目標

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

- (1) 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読もうとすることができる。
- (2) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすることができる。

## 3 単元の評価規準

観 点	B：おおむね満足できる
国語への 関心・意欲・態度	昔話を紹介するために、本を選び、楽しんで読書しようとしている。
読む能力	自分のお気に入りの昔話について、登場人物の行動を捉え、好きなところを選んで読書している。(カ)
言語についての 知識・理解・技能	敬体で書かれた文章に慣れ親しもうとしている。(イ(キ))

## 4 単元について

### (1) 児童について

児童はこれまでに、「おはなしよんで」「ほんはともだち」「まのいいりょうし」で、昔話に限らず読み聞かせを聞いたり、本を読んで楽しんだりする経験をしてきている。物語の楽しみ方については、「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」の学習を通して、調子のよいリズムや繰り返しのおもしろさ、音読の工夫、役割演技、簡単な劇遊びの楽しさについても体験している。また、「ゆうだち」や「くじらぐも」の学習では、場面の様子や登場人物の気持ちについて、想像を広げて読む力を高めてきている。日常生活では、学級文庫や図書館を積極的に活用しながら、本を手にとって楽しんでいる児童が多い。しかし、好きな部分しか読まなかったり、ページをめくるだけで文字は殆んど読んでいなかったりするものが実態である。また、ジャンルは、今はやりのマンガや、年齢に合った簡単な絵本や物語、図鑑等を好む傾向が強い。

だから、今回100冊を超える日本や世界の昔話を取り上げ、身近に置き、知っている昔話について友達と話したり、読みたい話や読んでもらいたい話を考えたり、「おはなしバッグ」を作ったり、登場人物をペープサートで表現したりしながら昔話を楽しむ体験は、児童にとって意義深いものであると考えている。

## (2) 教材について

本単元は、大きく分けると、3つのまとまりで構成されている。1つ目は、日本と世界の昔話を挿絵によって紹介している部分である。2つ目は、読書記録や計画の例を示している。物語を読んだ日付や題名、それと共に感想を「おもしろかった印」で表すことによって、児童の読書意欲が継続するようになっている。3つ目は、歌・動作化・指人形でのやり取りといった、昔話の楽しみ方についての紹介となっている。児童にとって読書が身近なものになり、自ら本にかかわり、計画的に物語の世界を楽しもうとする態度を育てていくのに適した教材である。

今回たくさんの昔話に触れることは、古くからの人々のものの見方や考え方を無意識の中で聞き、引き継ぐことにもつながる。また、この教材をきっかけに、大型紙芝居、ストーリーテリング、エプロンシアター、おはなしたまてばこ、物語サイコロなど、これまでに体験した物語の楽しみ方を想起したり、図工との合科的な学習を工夫したりして、時間をできるだけ確保して、十分な体験を伴いながら教材を生かしていきたい。

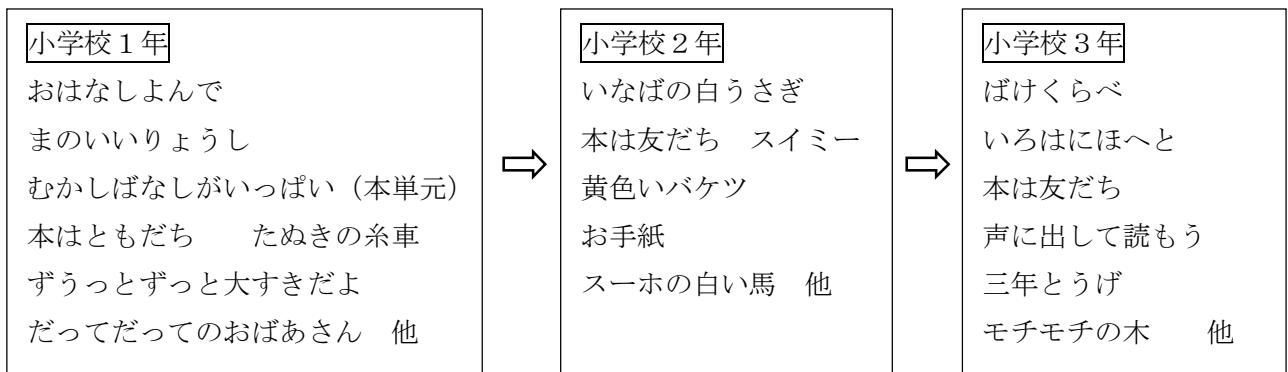
## (3) 指導について

世界と日本の昔話マップ絵をヒントに、できるだけ多くの昔話を並べ挙げ、児童の読書の世界を広げていきたい。一人では見付けられなくても、クラス全体で取り組むことで、知っている児童が知らない児童にどんな話を伝えたり、この本にもこんな場面があるのだと教え合ったりすることで、より主体的な読書につなげることができると考えている。

また、一人一人が昔話に親しみ、より主体的に読書に取り組む力をつけるために、児童自らがお気に入りの昔話を選び「おはなしバッグ」を作るという言語活動を設定する。その中で必要な部分を取り出して読んだり、友達から感想をもらったりする中で、自分の考えの幅も広げることでもできるのではないかと思われる。読書の幅を楽しく広げられるように指導を工夫したい。

また、司書教諭や学校図書館・滝沢市立湖山図書館等とも連携を取り、絵に示された本をできるだけ複数冊用意したり、読み聞かせを工夫したりして、環境も工夫しながら進んで読書をする態度を育てていきたい。

## 5 単元の系統と他教科との関連



## 6 単元の指導計画 (4時間扱い)

(1) 教師の「おはなしバッグ」を見て聞き、単元の目標を知り、学習の見通しをもつ。その際、友達と「おはなしバッグ」を作って紹介し合いながら楽しむことを確認する。

教科書の挿絵を見ながら、知っている昔話について話し合う。

「読書日記」の書き方を知り、教師の話した昔話について書いてみる。 1時間

(2) 司書教諭の昔話を聞き、それを読書日記に書く。

自分で選んだ本で、「おはなしバッグ」を作る。登場人物を確認したり、好きなところとそのわけを考えたりして楽しむ。 1時間

(3) 司書教諭の作った「おはなしバッグ」を聞く。自分の作った「おはなしバッグ」を友達に紹介する。感想を話し合う。読書日記にも記入する。 1時間(本時)

(4) 違う友達と「おはなしバッグ」を見せ合い、感想を話し合う。その後、読みたい昔話について「読書計画」を立て、本棚から好きな昔話を選んで読書をして楽しむ。 1時間

## 7 本時について

### (1) 目標

自分の選んだ昔話について、好きなところとその理由を紹介し合い、楽しむことができる。  
(読む能力)

(2) 「自分の考えをもつ<sup>自</sup>」「互いの考えを交流する<sup>交</sup>」「互いの考えのよさに気づく<sup>気</sup>」場面

本時の「自分の考えをもつ」場面は、自分のお気に入りの昔話について、好きなところとその理由を考えて話すところである。「互いの考えを交流する」場面は、友達の好きなところの紹介を聞いて、自分はどう思ったか話し合うところである。またこのときには、「互いの考えのよさにも気づく」ことができると考えている。

### (3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点(方法)
導入 5分	1 司書教諭提示の大型絵本を見ながら、昔話を聞く。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             じぶんが きにいった むかしばなしの どうじょうじんぶつと すきなところを ともだちに しょうかいしよう。           </div> 3 課題解決の見通しをもつ。		○指導上の留意点●評価の観点(方法) ○司書教諭の読み聞かせを聞き、昔話を楽しませるとともに、さらに昔話への関心を高める。 ○本時の課題と学習の流れを確認し、見通しをもって活動できるようにする。
展開 30分	4 学習課題を解決する。 (1) 紹介の仕方を確かめる。 ① 題名 ② 主な登場人物 ③ 登場人物の行動と、そこが好きなわけ (2) 自分の「おはなしバッグ」を使いながら、好きな昔話を紹介し合う。 (3) 紹介してもらったら、必ず感想を話したり、拍手をしたりする。	自 交 気	○担任と司書教諭がモデルとなり、紹介の観点を示しながら、具体的にどうすればよいかを確認する。 ○選んだ本を3・4人のグループで紹介し合い、読書への興味を広げられるようにする。 ●紹介し合ったり、友達の話を楽しく聞いたり、感想を話したりして、昔話を楽しんでいる。(学習シート・発言) ○紹介が終わったら、その本を手にとって読む時間を確保する。またそれが終

			<p>わったら、それ以外の本もどんどん読んで、時間の限り読書を楽しむようにさせる。</p>
<p>終末10分</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。  (1) 自己評価をする。  (2) 感想を話す。</p> <p>6 次時の学習を確認する。</p>	<p>気</p>	<p>○友達の好きなどころと、自分の好きなどころがどうだったのかなど、話し合ったり感想を述べたりすることで、学習の成果を実感させたい。また、自分が出来たことや頑張ったことを確認し、自信を付けさせたい。</p> <p>○今度読んでみたい昔話、あるいはもう一度読みたい昔話が見付かったかなど話し合い、読書への関心の高まりと、次の学習への意欲へと結び付ける。</p>

(4) 板書計画

むかしばなしがいっぱい

じぶんがきにいった むかしばなしの  
とうじようじんぶつと すきなところを  
ともだちに しょうかいしよう。

おはなしバッグの  
しょうかいのしかた

① だいたい  
② とうじようじんぶつ  
③ すきなところと そのわけ

きくときは

① なんていうだいたいかな。  
② だれが でてくるのかな。  
③ おもったこと  
ぼくと おなじだ。  
わたしは ここがすぎだ。

かんそうで つかいたいことば